年度　個別の指導計画　【自立活動】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 児童生徒名 | 年　　組〔　　　　　　　　〕 | 作成者 |  |

１　児童生徒の実態

（１）障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

|  |
| --- |
|  |

（２）（１）の情報を、６区分で整理

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １健康の保持 | ２心理的な安定 | ３人間関係の形成 | ４環境の把握 | ５身体の動き | ６コミュニケーション |
|  |  |  |  |  |  |

（３）（１）の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

|  |
| --- |
|  |

２　長期目標（年間の指導目標）

|  |
| --- |
|  |

３　必要な項目

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １健康の保持 | ２心理的な安定 | ３人間関係の形成 | ４環境の把握 | ５身体の動き | ６コミュニケーション |
| （1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること | （1）情緒の安定に関すること | （1）他者とのかかわりの基礎に関すること | （1）保有する感覚の活用に関すること | （1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること | （1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること |
| （2）病気の状態の理解と生活管理に関すること | （2）状況の理解と変化への対応に関すること | （2）他者の意図や感情の理解に関すること | （2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること | （2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること | （2）言語の受容と表出に関すること |
| （3）身体各部の状態の理解と養護に関すること | （3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること | （3）自己の理解と行動の調整に関すること | （3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること | （3）日常生活に必要な基本動作に関すること | （3）言語の形成と活用に関すること |
| （4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること |  | （4）集団への参加の基礎に関すること | （4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること | （4）身体の移動能力に関すること | （4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること |
| （5）健康状態の維持・改善に関すること |  |  | （5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること | （5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること | （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること |

４　具体的な指導内容（区分と項目・教科等・担当者）

|  |
| --- |
|  |

５　短期目標（学期ごとの指導目標）と評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | １学期 | ２学期 | ３学期 |
| 短期目標 |  |  |  |
| 評価 |  |  |  |

６　年間指導計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 指導内容 | 指導場面指導者 | 具体的な支援 | 評価・記録 |
| １学期 |  |  |  |  |
| ２学期 |  |  |  |  |
| ３学期 |  |  |  |  |

（解説付き）

　　　年度　個別の指導計画　【自立活動】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 児童生徒名 | 年　　組〔　　　　　　　　〕 | 作成者 |  |

１　幼児児童生徒の実態

（１）障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

|  |
| --- |
| 個々の障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境等の実態を的確に把握します。具体的には、基本的な生活習慣、人やものとの関わり、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、視機能、聴機能、身体機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障がい理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境等です。 |

（２）（１）の情報を、６区分で整理

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １健康の保持 | ２心理的な安定 | ３人間関係の形成 | ４環境の把握 | ５身体の動き | ６コミュニケーション |
| （１）で収集した情報を、自立活動の区分の視点で整理することで、障がい名のみに頼って特定の指導内容に偏ることなく、対象となる児童生徒の全体像を捉えることができます。 |  |  |  |  |  |

（３）（１）の情報を、学習上又は生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

|  |
| --- |
| 次に、（１）で収集した情報を、学習上又は生活上の困難の視点で整理します。その際、学習上又は生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできること等も記載すると、指導や支援のヒントになります。最後に、幼児児童生徒の生活年齢や学校・園で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れ、「〇年後の姿」をイメージしたり、卒業・卒園までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定したりして情報を整理します。 |

２　長期目標（年間の指導目標）

|  |
| --- |
| 実態把握から明らかになった幼児児童生徒の「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」のうちから、その年度の指導目標の設定に必要な課題に焦点を当て、中心となる課題を選定します。中心的な課題を踏まえ、課題を解決（改善）するための１年間の長期的な観点に立った指導目標を設定します。 |

３　必要な項目

指導目標が定まったら、それらを達成するために必要な項目を、自立活動の内容の６区分２７項目から選定します。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １健康の保持 | ２心理的な安定 | ３人間関係の形成 | ４環境の把握 | ５身体の動き | ６コミュニケーション |
| （1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること | （1）情緒の安定に関すること | （1）他者とのかかわりの基礎に関すること | （1）保有する感覚の活用に関すること | （1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること | （1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること |
| （2）病気の状態の理解と生活管理に関すること | （2）状況の理解と変化への対応に関すること | （2）他者の意図や感情の理解に関すること | （2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること | （2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること | （2）言語の受容と表出に関すること |
| （3）身体各部の状態の理解と養護に関すること | （3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること | （3）自己の理解と行動の調整に関すること | （3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること | （3）日常生活に必要な基本動作に関すること | （3）言語の形成と活用に関すること |
| （4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること |  | （4）集団への参加の基礎に関すること | （4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること | （4）身体の移動能力に関すること | （4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること |
| （5）健康状態の維持・改善に関すること |  |  | （5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること | （5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること | （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること |

４　具体的な指導内容（区分と項目・教科等・担当者）

|  |
| --- |
| 選定した項目を関連付け、具体的な指導内容を設定していきます。その際、「指導目標を達成するためには、こんな力が必要である。したがって、区分○○の項目○○と、区分△△の項目△△を関連付けて指導する。」等、前述の課題同士の関連や中心課題を設定したプロセスを振り返りながら検討することが大切です。また、指導場面や指導者を明確にし、計画的・組織的に進めましょう。 |

５　短期目標（学期ごとの指導目標）と評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | １学期 | ２学期 | ３学期 |
| 短期目標 | １年間の長期目標を踏まえ、学期ごとの短期目標を定め、自立活動の指導の効果を高めます。その際、段階的に短期目標が達成され、それがやがて長期目標の達成につながるという展望を捉えておくことが重要です。また、その到達状況の具体的な姿を捉えておくことが重要です。 |  |  |
| 評価 |  | 指導目標の実現に向けて、児童生徒等がどのように変容しているかを評価します。また、児童生徒等がどのような点でつまずいているかを明確にし、指導の改善につなげます。評価に当たっては、教師間の協力の下で適切な方法を活用して進めるとともに、多面的な判断ができるように、必要に応じて外部の専門家や保護者等と連携を図っていくことも大切です。実態に応じて、自己評価を取り入れ、自己理解や学習への意欲を高めましょう。 |  |

６　年間指導計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 指導内容 | 指導場面指導者 | 具体的な支援 | 評価・記録 |
| １学期 | 前ページで設定した１年間の長期目標、年間の指導内容、学期ごとの短期目標を踏まえて具体的な年間の指導計画を立て、組織的・計画的な指導に役立てます。 |  |  |  |
| ２学期 |  |  |  |  |
| ３学期 |  |  |  |  |